お　礼

第１回目の東北の高校生の富士登山から10年となりました。多くの方々にご支援いただき、ありがとうございます。

2022年7月26日-28日、「東北の高校生の富士登山2022」を実行致しました。今年もコロナ禍での実施でしたのでPCR検査を行ない、登山のことだけでなく、より安心して参加できるようにしました。

当初、高校生40名と行く予定でしたが、日時が近くなるにつれコロナの感染拡大が大きくなり、参加する高校生が感染したり、濃厚接触者となり不参加となったり、前日まで参加人数は確定しませんでした。こうした状況でも30名の高校生と富士山の挑戦となりました。

初日、水ケ塚公園に到着時は大雨。いままでは外で開会式を行なっておりましたが、今年はバスの中で簡易的に開会式を行ないました。天候的なこと、初めての挑戦ということもあり、高校生はみんな緊張が漂っておりました。

27日深夜、天候が回復しない状況。天気予報は時間を遅くすると回復傾向。午前2時半起床を午前3時半に変更して登山開始。雨の中、ヘッドライトを付けて「一班、行くぞ！！」とリーダーの掛け声。真っ暗のなか歩き始めました。初めての登山、暗い中、不安がたくさんあります。新7合目に着く頃には空が明るくなり始め、天気もだいぶ良くなりました。

標高が高くなると同時に、体調不良になる高校生が出始めました。班から離れ、ゆっくりゆっくり。その横を越していくときに、仲間から「がんばって」の掛け声。本人はそれどころではないと思います。でも、その掛け声から元気をもらい、「一歩一歩」歩いていきます。

11時30分、全員が富士山頂上に到着。全員、よく頑張りました。登った日は全員疲労困憊で、山小屋のトイレに行くのもヨロヨロ。でも彼らの表情は最高にいい表情でした。出発前の緊張が嘘のように、みんな仲間になってます。達成感や満足感に満ち溢れ、とても清々しい表情です。毎年そうなんですが、最終日の朝の彼らの表情は本当に一人ひとり格好いいんです。大きく成長しているように思います。

今年の富士登山に参加した高校生と話をしていて、あることに気が付きました。多くの高校生が復興に携わるボランティアの活動をしているということです。彼らは東日本大震災のとき、幼稚園、小学校低学年です。記憶としては１回目に比べて薄れていくのかなと、思っておりましたがそうではありませんでした。自分たちの生まれ育った場所が震災に襲われ、復興していく様を自分たちで支えておりました。

10年目の今年、「東北の高校生の富士登山」として、初めての試みがありました。2014年に参加したOBが大人になり、サポーターとして一緒に富士山を歩きました。とても感慨深いです。あの頃学生だったのに、大人になり高校生をサポートしています。参加した高校生がこうしてサポートに回って支援をする形になること、第1回目には想像もしていませんでした。

これまで多くの高校生と富士山を歩きました。彼らは成長し、日本、東北を支え始めております。こうした光景を田部井淳子は見たかったのかと思います。

今年も無事に遂行できたのは、多くの方々に支えられたからです。心から感謝致します。

来年以降も引き続きご支援をよろしくお願い致します。締めは毎年同じ言葉とさせて頂きます。

皆さま「百万遍もありがとうございました」

一般社団法人田部井淳子基金

実施概要

名称 東北の高校生の富士登山2022　　登ろう！ 日本一の富士山へ

目的 日本一高い富士山に登り、次なる東北を支える新たな勇気と元気を山から得てもらう。
青少年育成。東日本大震災復興応援

主催 一般社団法人田部井淳子基金

後援 文部科学省、環境省東北地方環境事務所、福島県教育委員会、朝日新聞社、読売新聞社、
福島民友新聞社、福島民報社

特別協賛 株式会社アルソア慧央グループ、堀宏、山井太、株式会社スノーピーク、イワタニ・プリムス株式会社、なすび、住友生命保険相互会社、公益財団法人ヨークベニマル文化教育事業財団、石坂産業株式会社、VIVIT株式会社、高麗神社、鵬友精巧株式会社、どんぐりこどもクリニック、株式会社モンベル、有限会社アンジェリカ、大坂キミコ、アルパインツアーサービス株式会社（順不同）

※全国の山や自然を愛する方々の個人寄付にも支えられています（P.30参照）。
※独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」の助成を受けています。

協力 公益財団法人東日本大震災復興支援財団

協賛 株式会社フィールド＆マウンテン、株式会社マウント、株式会社ご機嫌、味の素株式会社、
株式会社虎屋、株式会社コモ、サントリー食品インターナショナル株式会社、救心製薬株式会社、認定ＮＰＯ法人富士山世界遺産国民会議（順不同）

運行取扱 アルパインツアーサービス株式会社（観光庁長官登録旅行業490号／日本旅行業協会正会員）

期日 2022年7月26日（火）～28日（木）【2泊3日】

行程 【7/26（火）】仙台AM5:30、郡山AM7:30、いわきAM5:30に集合→（専用バス等）→水ケ塚公園→富士宮五合目→（徒歩30分）→六合目「雲海荘」、「宝永山荘」に分宿
【7/27（水）】富士登山（静岡県　富士宮ルート往復。行動時間12時間半～15時間（休憩含む）。六合目の山小屋に連泊
【7/28（木）】六合目→（徒歩15分）→富士宮五合目→（専用バス）→富士山本宮浅間大社昇殿参拝、「花の湯」で温泉に入り、昼食後、専用バスにて各出発地へ（荒天などで2日目に登れなかった場合は、この日に富士登山し、下山後、各出発地へ帰る予定でした）実際の行動概要はP.5参照

対象 東北の高校生30人

参加費 3,000円（富士山保全協力金1000円を含む）

装備 希望者には無料でザック、登山靴、雨具上下等のレンタルあり。ヘッドライトは全員に貸与

募集 ネット等で告知。募集期間　2022/4/9（土）～2022/6/3（金）
参加予定者を対象にオンラインにて事前準備会を開催（全員参加）

事前準備会 【第1回】2022/7/9（土）17：00～18：30　全体の行程、登山装備等の説明
【第2回】2022/7/19（火）18：00～19：00　ＰＣＲ検査の説明・実施

運営 登山中密にならないよう、班ごとに行動。高校生30人を3班（女子1班、男子2班）に分け、各班に登山経験豊富なリーダーが同行。医療班も同行。関係者が無線で連絡を取り合い、全体を移動本部が把握。コロナ対策として、宿泊施設貸し切り、PCR検査実施、各業態における感染防止対策ガイドラインに準拠した対策

共同研究 筑波大学との共同研究を実施。今年で4年目。事前、当日、事後と、参加高校生を対象に複数回アンケートを実施。この富士登山が高校生の心身に与える影響について明らかにする。P.28参照

行動概要

■7月26日（火）　天気：雨、曇り

5：30　高校生たちを乗せた専用バス、出発（仙台5:30、郡山7:30、いわきは5:30にジャンボタクシーで出発し郡山で合流）。道中、協賛社からの飲料や行動食（おやつ）が配られ、到着後すぐに登山開始できるよう雨具を着用し準備を整えた。スタッフバスは9:25 新宿を出発、12:08 富士山麓の水ケ塚駐車場着。受け入れ準備と関係者の最終打合せを行なった。

13：30　高校生たちのバスが水ケ塚駐車場に到着。 14:00 大雨のため、急遽バスの中で簡易的に開会式を行ない、そのままバスで五合目へ。

14：40　五合目到着。 霧雨の中、各班に分かれて出発式。

15：00　登山口にて全員で記念撮影後、班ごとに五合目出発（登山開始）。

15：30　六合目到着。 女子は雲海荘、男子は宝永山荘に荷物を置いて、小雨の中、高所順応のため6.5合目まで往復。16:05 六合目に戻る。

17：00　関係者ミーティング。 翌27日の天気を確認。早朝は雨が降るもののAM6時頃からは天気が回復し午後も比較的よい予報。迷うことなく27日に富士登山することを決定。

17：40　夕食（カレー）。 登山の注意や高山病対策などについて説明を受けたあと夕食。コロナ対策のため、昨年に引き続きパーテーションの立つテーブルで黙食となった。美味しいカレーはお替わり自由。夕食後は、自己紹介したり、筑波大のアンケートを記入。天気も回復し、夕焼けで雲がピンク色に染まった。初めて雲海を見たという高校生も。19:30 就寝。

■7月27日（水）　天気：曇り、晴れ、雨

3：30　起床、4：00 出発。 14℃。早朝風雨が強く、起床・出発を1時間遅らせた。4時00分に小屋を出発する頃には風は穏やかになり雨もほぼやんだ。ヘッドライトの明かりを頼りに、1班の女子班から、2，3班の男子班の順に歩き出す。ほどなく夜明け。雲海の向こうに江の島も望め、時折太陽ものぞくなか、歩みを進めた。八合目から上は再び風雨が強まる。遅れた高校生もいたが、全員が自分の足で日本一の頂へ。

10：40〜11：05　各班、富士山（富士宮口）頂上到着、曇り。
応援ツアーの皆さんに出迎えられ、次々と富士宮口頂上に登頂。その後、11：50までに全員が剣ケ峰にも登頂。ガスのため展望はなかったが、富士宮頂上に戻ると一瞬ガスが晴れてお鉢の中の様子を見ることができた。

12：00　下山開始。 富士宮頂上にて記念撮影後、体が冷えないうちに早々に下山。

16：35　六合目に到着。
遅れた高校生は別班となって、大人の手厚いサポートを受け、下山。空には虹が。最後の高校生は19：00 六合目着。小屋の前で皆が出迎え、その頑張りを称えた。この日の12時間半〜15時間に及ぶ行動を皆が無事終えた。

17：45〜　夕食（牛丼）。 夕食後には、歴代の先輩たちが書き足してきた横断幕にひと言を書いたり、感想を俳句に詠んだりして過ごし、21:00 消灯。

■7月28日（木）　天気：晴れ

4：30〜4：50　起床、朝食。 12℃。晴れ。朝焼けでピンクに染まった空に大きな影富士が出現。

5：50　記念撮影。 六合目にて富士山と青空と雲海をバックに全員で記念撮影し、6:15 六合目を出発。

6：30　五合目着。 駐車場で班ごとに解散式。

7：30　2回目のPCR検査実施。 水ケ塚駐車場にて。青空に富士山の全容が見えたため、急きょここでも記念撮影。

8：40〜10：05　富士山本宮浅間大社。 昇殿参拝し、神社の方の説明を伺いながら境内を見学。富士山から湧き出る豊かな水にも触れた。その後、閉会式。今年も一緒に登ってくれたなすびさんからごあいさつをいただいた後、同行した関係者が一人ずつあいさつし、高校生に語りかけた。

10：40〜　温泉施設「花の湯」にて入浴と食事（とんかつ定食）。 久しぶりにお風呂に入り、皆で、水と電気のありがたさを実感。昼食の黙食中、前夜書いてもらった俳句の講評を行なった。

13：10　「花の湯」出発。 東北に向かい、専用バスで帰途につく。スタッフバスは15：30新宿着。

18：30〜20：45　高校生帰着、解散。 高校生は郡山駅18：30着、いわき駅20：40着、仙台駅20：45着。

高校生の班分けとスタッフ・関係者名簿等

■ 参加高校生の学校名(全16校)

高校名			
宮城県仙台第二高校	宮城県宮城野高校	福島県立ふたば未来学園高校	福島県立白河旭高校
宮城県仙台第三高校	仙台育英学園高校	福島県立好間高校	福島県立郡山東高校
宮城県仙台二華高校	宮城県石巻高校	福島県立平商業高校	福島県立安積高校
東北学院榴ケ岡高校	福島県立いわき翠の杜高校	福島県立石川高校	福島県立福島東高校

■ 各班編成、リーダー、本部、関係者

班	生徒人数	パーティーリーダー	サブリーダー	サポーター
1班	女子10人	天野和明 (田部井淳子基金/国際山岳ガイド)	橋本香織 (アルパインツアーサービス)	岡部広和 (田部井淳子基金/2014年富士登山OB)
2班	男子10人	渡辺幸雄 (アルパインツアーサービス)	渡邉尚子 (アルパインツアーサービス)	久保田賢次 (田部井淳子基金/隊長)
3班	男子10人	河野 格 (アルパインツアーサービス)	鈴木裕久 (アルパインツアーサービス/富士山ガイド)	斎藤健一郎 (田部井淳子基金/朝日新聞社)
移動本部		田部井進也 (田部井淳子基金)	椙山太郎 (アルパインツアーサービス)	
医療班		稲田千秋 (田部井淳子基金/医師)	並木弥生 (田部井淳子基金/看護師)	
協力隊		なすび (田部井淳子基金/俳優・タレント)		
田部井隊		田部井政伸 (田部井淳子基金/代表理事)	吉田三菜子 (田部井淳子基金/事務局長)	
取材班		小山俊一 (田部井淳子基金/公式動画カメラマン)		
在京本部		小林博史 (アルパインツアーサービス)	亀田広明 (アルパインツアーサービス)	

■ 学年

1年生	9人
2年生	16人
3年生	5人

■ 性別

女子	10人
男子	20人

■ 県別

宮城県	19人
福島県	11人

■ 集合、解散場所

仙台	19人
郡山	7人
いわき	4人

■ 今までの参加状況

	日　程	参加した東北の高校生の人数
1	2012年7月21日(土)～23日(月)	61人
2	2013年7月22日(月)～23日(火)	74人
3	2014年7月22日(火)～24日(木)	86人
4	2015年7月22日(水)～24日(金)	101人
5	2016年7月26日(火)～28日(木)	93人
6	2017年7月25日(火)～27日(木)	64人
7	2018年7月24日(火)～26日(木)	96人
8	2019年7月23日(火)～25日(木)	104人
9	2021年7月27日(火)～29日(木)	14人
10	2022年7月26日(火)～28日(木)	30人
今まで本プロジェクトに参加した東北の高校生ののべ人数		723人

※第1回目は NPO法人 日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラストの主催。
第2回目～5回目は、株式会社山と溪谷社・日本山岳遺産基金と、田部井淳子の主催。

応募動機から

参加申込時の自由記述欄に、応募動機として書かれていた内容です。

以前、私の姉がこのプロジェクトに参加し、とても良い経験になったと言っていたので私も参加したいと思いました。正直、運動は苦手で体力も無く、登りきれるかどうか不安はありますが、人生の中でも貴重な経験になると思うので挑戦してみたいです。昨年は学校行事と重なり参加できなかったのですが、今年こそはと思い、応募させていただきました。**(高校3年女子・宮城県多賀城市)**

応募したいと思った理由は、コロナで今まで通りの高校生の青春(修学旅行、合宿)が送れなくなり高校時代の思い出が無くなるのは今後の人生において後悔すると思ったからです。私たち2004年生まれは小学校入学時に東日本大震災、高校入学時に新型コロナウィルスに巻き込まれて様々なライフステージで壁が立ちはだかりました。ここで1番楽なのはコロナで青春送れなかったと言うことです。これは非常に私自身ダサいなぁと思っていて自分の人生を震災やコロナに振り回されたまんまだったら自分の人生良いようには送れずに後悔すると信じているからです。それをする位ならコロナや震災という大厄災を逆に利用してどうにか後悔しない、そして幸せな人生、自分が納得出来る日々を送りたい、そして、自分自身に成功体験を残したいと思ったからです。**(高校3年男子・福島県石川郡玉川村)**

高校生たちの俳句・短歌・川柳

富士登山を終えたその晩、山小屋で、富士山に登って感じたことを詠んでもらいました。
字余り、季語なし、一人何句でもOKで募りました。

富士山よ
皆と登った
たからもの

挨拶と
励ましの声
絶えぬ山

夏富士や
我を見つけて
雨降らす

雨晴や
私の気持ち
持ち上げる

フジヤマは
ダウン脱いだら
寒くなる
コロコロ転がる
恋の顛末のよう
富士山田輝

雲の上
少し歩けば
雲の中
ハルカ

いわをこえ
雨風たえて
道進む
たかし

富士登頂
ここから始まる
私登山

雨穿ち
霞立ちたる
剣ケ峰
正岡子規

幻想的
景色に見とれ
ラク注意
おののはるか

到着が
遅れ迎えは
七色の虹
アミノバイタル

あー雲や
あー雨や
あー虹や！
ユリー

きつすぎる
ああでもやっぱり
良い経験

富士山の
天気はだいたい
乙女心

ぼくはだれ
ああわからない
高山病

富士登山
不安がいっぱい
楽しかった

風呂入れぬ
苦しみよりも
富士まさる
家大好き

人生で
最長の旅
知ったこと
人とのつながり
世界は広がる

You can reach
the top of any mountain
if you walk step by step.

会計報告

（単位：円）

項目		収支明細摘要	収入	支出
協賛金等	協賛金・寄付金等	企業・団体等からの協賛金、個人からの寄付、助成、前年繰越	8,021,272	
参加費	参加費	30人分×3,000円	90,000	
富士登山実行経費	宿泊費・雑費	山小屋貸し切り、手数料ほか		843,189
	交通費・雑費	バス貸し切り、スタッフ同行費、サポーター・講師謝礼ほか		1,675,150
	登山関連雑費	アクティビティ関連費、富士山環境保全協力金、レンタル装備代		267,100
	登山装備費	パルスオキシメーター、無線機器、医療品ほか		59,058
	保険料	高校生、サポーター		34,831
運営費事務費等	印刷関連費	チラシ、報告書等作成		381,520
	コロナ対策費	コロナ感染予防対策費、PCR検査代、事前準備会準備費ほか		957,579
	交通費	打合せ、事前調査		119,910
	通信・運搬費	参加者などへの書類送付、報告書等の郵送		84,640
	運営事務費	事務運営費、広報、打合せ費、資料作成、文具、コピーほか		3,513,200
合計			**8,111,272**	**7,936,177**

＊残金は来年以降の本プロジェクトに大切に使わせていただきます。

後記

今年は、昨年よりも厳しいコロナ感染者数の、第7波真っ只中での開催となりました。3年間しかない高校生活のうち大半をコロナ禍の中で過ごしている高校生たちが相手です。関係各所の皆様のご協力と、「応援しています、ぜひ続けてください」「コロナ禍でしばらく中止になっていると思っていたのですが、開催されていて感激です。引き続き応援していきたいと思います」と、応援、ご寄付して下さる皆様に背中を押され、おかげさまで、今年も無事に東北の高校生の富士登山を終えることができました。本冊子に記された高校生たちの文章から、彼らがそれぞれにこの富士登山でつかみとってくれた何かを共有していただければと存じます。
また皆様から託された応援のお気持ちの結果を、ここに、報告書の形でお届けすることで、少しでもこのプロジェクトの成果を分かち合うことができましたら幸いでございます。

本プロジェクトも10年経ちましたが、若い力を育むための、まだまだ続ける価値のある活動と考えております。
ちらほらと、かつて富士登山に参加した高校生たちが大人となり、今度は大人の立場から、この活動に対し支援してくれるようにもなってきました。
これからも東北の高校生の富士登山は続きます。高校生の参加費は、引き続き、お小遣いでも参加できるよう1人3000円。それ以上にかかるものについては、個人、団体、企業様等からのご寄付、ご協賛、助成によって運営して参ります。

どうか、引き続き本プロジェクトを見守り、応援していただけますよう心よりお願い申し上げます。

一般社団法人田部井淳子基金
東北の高校生の富士登山事務局

東北の高校生の富士登山 募金のお願い

～明日の東北をになう若い世代のために～

一般社団法人田部井淳子基金では、東北の高校生の富士登山プロジェクトをこれからも継続的に行なってゆきます。
明日の東北をになう若い世代のために、ぜひ引き続きお力添えください。
ご寄付頂ける場合は、同封の払込取扱票または、下記の郵便口座へお願いします。

［口座記号番号］ **00170-9-418320**
［加 入 者 名］ **東北の高校生の富士登山事務局**

＊郵便局に備え付けの払込取扱票（青い文字のほう）をご利用ください。恐れ入りますが、払込手数料はご負担ください。
＊富士登山の様子は、専用ホームページ http://www.junko-tabei.jp/fuji/ などでご報告させていただきます。

東北の高校生の富士登山 2022

登ろう！ 日本一の富士山へ

ご報告＆高校生の感想文

発　行　2022年11月20日

発行人　一般社団法人田部井淳子基金
代表理事 田部井政伸
〒350-1123 埼玉県川越市脇田本町6-4-301
TEL 049-256-7507、080-8865-2580
mountain@junko-tabei.jp

田部井淳子基金ホームページ
http://www.junko-tabei.jp

東北の高校生の富士登山ホームページ
http://www.junko-tabei.jp/fuji/

写真／渡辺幸雄、一般社団法人田部井淳子基金　デザイン／浅野仁史　印刷・製本／株式会社 セールストリガー